

東京開発ラーニングセンター

日本政府/世界銀行の遠隔ラーニング・パートナーシップ・プロジェクト 中間評価

2006年12月

要約

2003年10月に発足した日本政府・世界銀行の遠隔ラーニング・パートナーシップ・プロジェクトは2004年6月、東京開発ラーニングセンターの完成とともに活動を開始した。このレビューは5年計画の当プロジェクトが折り返し点を迎えたのを機に前半の実績を振り返り、専門家のパネルが客観的な評価を行ったものだ。評価にあたっては当初の目標に照らして成果を考察しており、プロジェクト後半の活動に指針を与えるのも狙いだ。

全般的にみて、TDLCは設立から比較的短時間の間に多くの成果を上げたと評価できる。TDLCの努力の結果として構築されたプラットフォームは強力なもので、

- 途上国にとって、日本の諸機関が持つリソースや専門知識をアクセスすることが可能になる。
- 日本の諸機関にとって、各国政府や機関とパートナーシップを築き、アウトリーチを広げるうえで有益である。
- ネットワークを基盤とする地域ベースのアプローチは、活動の機会を大きく広げる。

プロジェクト前半のTDLCの実績のうち顕著なものは以下の通り：

- 創造的なプログラムを通じて急速にビジネスの量的拡大を実現。TDLCの稼働率は順調に伸び続け、2005年には12月の145%を頂点に、年平均でも70%を超えた。また、TDLCは国内外42機関とパートナーシップを築き、そのうち33機関は継続的なユーザーとして定着している。
- 地域内の遠隔ラーニングセンターのマネジメント、技術的水準、モチベーションを高めることに大きく貢献し、組織としての信頼を高めた。これによってネットワークの拡大や持続性を確保する道筋をつけることができた。
- 新たなGDLNの地域組織、GDLNアジア大洋州協会の設立にあたり重要な役割を担った。この組織はガバナンスの枠組みを定め、サービス水準向上に努めることによって地域ベースでビジネスや資金確保の機会をつくることを目的としている。
- GDLNの活動を支える新たなメソッド、システム及びツールの開発と普及に努め、すでに一部トレーニング・プログラムや教材に活用している。今後はネットワーク全体として活用することも可能だ。
- 世界銀行その他パートナー、とくに遠隔ラーニングセンターが所在する国では良好な評価を築いた。TDLCは多様なグループ間でコンセンサスを築き、マネジメントや技術的ノウハウを共有することによってリーダーシップを発揮。GDLNの「核」として位置づけられた。

- アジア及びアフリカ地域において、開発のための貴重なパートナーとして日本の評価を高めた。これはTDLCを通して、日本の大学や政府機関などが持つ質の高い知識や経験を共有するプログラムを提供することができたことによる。
- 日本と海外機関との間で「橋渡し」の役割を担うようになった。世界銀行の国際性や、世銀、日本政府の意向をくみ、今後もこうした役割の強化が期待される。

プロジェクト前半の業績に基づき、TDLCは今後以下について尽力することが望まれる：

- **GDLN** アジア大洋州協会の強化。ネットワークビジネスとして自活できるよう、安定した、持続可能な組織として発展させることが望ましい。
- ナレッジ共有、ブレンデッド・ラーニング、対話などの手法を活かした付加価値の高いサービスの企画と実施。これらのサービスや**GDLN**のコンセプトをさらに明確に打ち出すことが期待される。
- 世界銀行にとって有用なサービスの開発。
- 支払能力の高い利用者の拡張。利用者に新しい技術、教授法などを紹介し、十分に活用してもらえるよう研修を行うとよい。
- 新しい、創造的なコンテンツ提供の取り組み。ネットワークを通じて専門知識を導入し、日本や海外のパートナー間の交流を盛んにすることが期待される。
- 実績を評価するための指標の考案。**GDLN**の効果をどう伝えるか、またセンターのオペレーション、プロジェクトのマネジメントに関する指標の採択も求められる。

このようにプロジェクト前半におけるTDLCの実績を見る限り、主要なステークホルダーの間ではほぼすべての分野で期待を上回る実績を上げていることがうかがえる。また、当初は想定されていなかった活動分野の開拓にも成功した。こうして築かれた強固な基盤は、プロジェクト後半の任務を遂行するうえで極めて有効に機能するであろう。

* この要約は正式な報告書（英文）をもとにTDLCにて作成いたしました。
報告書の全文は <http://www.jointokyo.org/en/about/documents/midtermreview/> でご覧になれます。